

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）
令和４年度採択テーマ
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合 評価
水路実験による火山泥流の堆積機構の解明と数値モデルの開発（研究期間：R4 年度～R6 年度）	宇都宮大学農学部森林科学科 助教 酒井佑一	A
<研究概要> 火山噴火に伴い発生する火山泥流は、石礫型土石流とは異なり細粒成分が主体で、より緩勾配まで流れる傾向にある。本課題では、水路実験において間隙水圧の測定などにより、火山泥流（泥流型土石流）の流動・堆積機構を明らかにする。さらに、実験成果を取り入れた火山泥流の数値モデルを開発し、現地（浅間山など）においてシナリオ検討を行うことで、火山ごとの特徴に応じた火山泥流の規模・到達範囲を比較検討する。		
<事後評価コメント> 本研究では、研究者らが融雪型火山泥流について実現象に沿った一連過程（火砕流→融雪→火山泥流）をモデル化することで新たな計算手法を提案したことは、火山泥流の到達範囲、到達時間の予測精度向上につながる等、砂防行政への反映の観点から大いに評価出来る。 今後は、地域性のある火山噴火対策に向けて各火山で検証を行い、数値計算モデルの更なる精度向上と実用化を図っていただきたい。		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い